

Agilent OpenLAB CDS ChemStation

エディション

アップグレード準備ガイド



Agilent Technologies

注意

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2012

本マニュアルは米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形式や方法（電子媒体による保存や読み出し、外国語への翻訳なども含む）においても、禁止されています。

マニュアル番号

M8301-96032

エディション

06/2012

Printed in Germany

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

本製品は、システムが適切な規制機関で登録を受け関連する規制に準拠している場合、ビトロ診断システムのコンポーネントとして使用できます。それ以外の場合は、一般的な実験用途でのみ使用できます。

ソフトウェアリビジョン

本ガイドの内容は Agilent ChemStation ソフトウェアのリビジョン C.01.04 以降について有効となります。

Microsoft® は、Microsoft Corporation の米国の登録商標です。

保証

このマニュアルに含まれる内容は「現状のまま」提供されるもので、将来のエディションにおいて予告なく変更されることがあります。また、Agilent は、適用される法律によって最大限に許可される範囲において、このマニュアルおよびそれに含まれる情報に関して、商品性および特定の目的に対する適合性の暗黙の保証を含みそれに限定されないすべての保証を明示的か暗黙的かを問わず一切いたしません。Agilent は、このマニュアルまたはそれに含まれる情報の所有、使用、または実行に付随する過誤、または偶然的または間接的な損害に対する責任を一切負わないものとします。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がこの文書の条項と矛盾する場合は、別の契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

このマニュアルで説明されているハードウェアおよびソフトウェアはライセンスに基づいて提供され、そのライセンスの条項に従って使用またはコピーできます。

安全に関する注意

注意

注意は、危険を表します。これは、正しく実行しなかったり、指示を順守しないと、製品の損害または重要なデータの損失にいたるおそれがある操作手順や行為に対する注意を喚起します。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、注意を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、危険を表します。これは、正しく実行しなかったり、指示を順守しないと、人身への傷害または死亡にいたるおそれがある操作手順や行為に対する注意を喚起します。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

このガイドでは、Agilent OpenLAB CDS ChemStation Edition C.01.04 へのアップグレードと分析システムの設定ステップについて説明します。このドキュメントは、ChemStation をアップグレードする前のリソースとして使用してください。

1 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 の導入

この章では、以前のリビジョンに対する Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 での変更、およびこのガイドの内容に関する情報の概要を説明します。

2 ライセンス方針

この章では、Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 のコンポーネントと機能に関するライセンス方針について説明します。

3 Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する前提条件

この章では、Agilent OpenLAB CDS ソフトウェアを正常に動作するための要件が記載されています。PC のタイプやパフォーマンス、オペレーティングシステム、および通信プロトコルに関する要件を説明します。

4 Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード

この章では、Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレード方法を説明します。これにはアップグレード中のアドオンソリューションへの対処法も含まれます。

目次

1	Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 の導入	5
	Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要	6
	OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 に導入された変更と新機能	12
2	ライセンス方針	13
	ライセンス方針	14
	ライセンス取得に関する検討事項	15
	OpenLAB ライセンス	19
3	Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する前提条件	21
	ハードウェアおよびソフトウェア要件	22
	通信コンポーネント	23
4	Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード	25
	アップグレード手順の概要	26
	アップグレードの準備	28
	ChemStation リビジョン C.01.04 のインストール	34
	機器の再コンフィグレーション	35
	インストールの完了	36
	ECM を使用したインストールのアップグレード	37
	ChemStation リビジョン A.xx.xx からのマニュアルアップグレード	44



1

Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 の導入

Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要 6

OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 に導入された変更と新機能 12

この章では、以前のリビジョンに対する Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 での変更、およびこのガイドの内容に関する情報の概要を説明します。



Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要

新機能

Agilent OpenLAB は、オープンアーキテクチャと再利用可能な標準化されたインタフェースを提供する、ラボソフトウェアのポートフォリオを含むオープンアーキテクチャです。科学的データのライフサイクルの各ステップについて、多様な OpenLAB ソリューションを用意しています。

- クロマトグラフデータシステム (CDS)

OpenLAB CDS は EZChrom エディションまたは ChemStation エディションとして使用できます。本書では ChemStation エディションについて説明します。

- エンタープライズコンテンツマネージャー (ECM)
- Electronic Lab Notebook (ELN)
- Data Store

OpenLAB CDS には、Agilent の LC、GC、CE、CE-MS、および LC-MSD 機器のすべての機器コントロールが用意されています。OpenLAB CDS には、マルチテクニック、マルチベンダーの機器コントロールを利用してデータの取り込み、分析、解析を行うツールが装備されています。OpenLAB Shared Services (OLSS) で提供されるすべての機能にアクセスする OpenLAB コントロールパネルからクロマトグラフィソフトウェアを開始します。

OpenLAB CDS ChemStation ChemStation Edition C.01.01 の新機能

ラボの規模に応じて、単一のワークステーション、またはネットワークワークステーションのいずれかとして OpenLAB CDS ChemStation をインストールすることができます。

単一のワークステーションでは、インテリジェントレポート、メソッド、またはデータ解析モードなどのすべての新機能を含む ChemStation の全機能を使用することができます。

ネットワークワークステーションでは、以下の追加機能が使用できます。

- ユーザーの集中管理

- 機器の集中管理
- ライセンスの集中管理
- ラボステータスの一覧表示

OpenLAB CDS ChemStation ChemStation Edition C.01.02 の新機能

リビジョン C.01.02 以上の OpenLAB CDS ChemStation ChemStation Edition では、次のインストール方法をサポートします。

- 分散システムとしてのインストール。分散システムインストールでは、以下の追加機能が使用できます。
 - 任意の PC から機器をコンフィグレーション
 - 任意の PC から機器をコントロール
 - 任意の PC からデータを再解析
- OpenLAB Enterprise Content Manager (ECM) とのデータ同期。ECM へは、ワークステーション、ネットワークステーション、または分散システムから接続することができます。

OpenLAB CDS ChemStation ChemStation Edition C.01.03 の新機能

OpenLAB CDS ChemStation ChemStation Edition C.01.03 には以下の新機能があります。

- 機器コントロール - 追加ドライバ
低流量のポンプ、インジェクタ、バルブ、および G1364D 自動フラクションコレクタの LC 機器に対応した RC.Net ドライバが追加されました。OpenLAB CDS ChemStation ChemStation Edition C.01.03 は、490 Micro GC をコントロールできます。
- 機器コンフィグレーション操作を改善
OpenLAB CDS ChemStation エディション C.01.03 は、より素早くかつ直感的に、機器コンフィグレーションを効率的に実行します。
- シーケンスのプランとキュー
シーケンスキューへはイージーシーケンスだけではなく、ChemStation の従来のシーケンスをキューすることができるようになります。また一

1 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 の導入

Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要

時停止の追加が可能です。新機能のキュープランを使用して、複数のシーケンスをセットとして事前に準備することができます。

- レポートビューア

レポートビューアでは、ChemStation レポートをより簡単に表示させることができます。レポートビューアは、ChemStation から起動することができ、PDF や TXT フォーマットの ChemStation レポートを表示させることが可能です。

注記

C.01.xx から新しいバージョンへのアップグレード方法の詳細については、該当する OpenLAB CDS ChemStation のインストールガイドを参照してください。

OpenLAB CDS

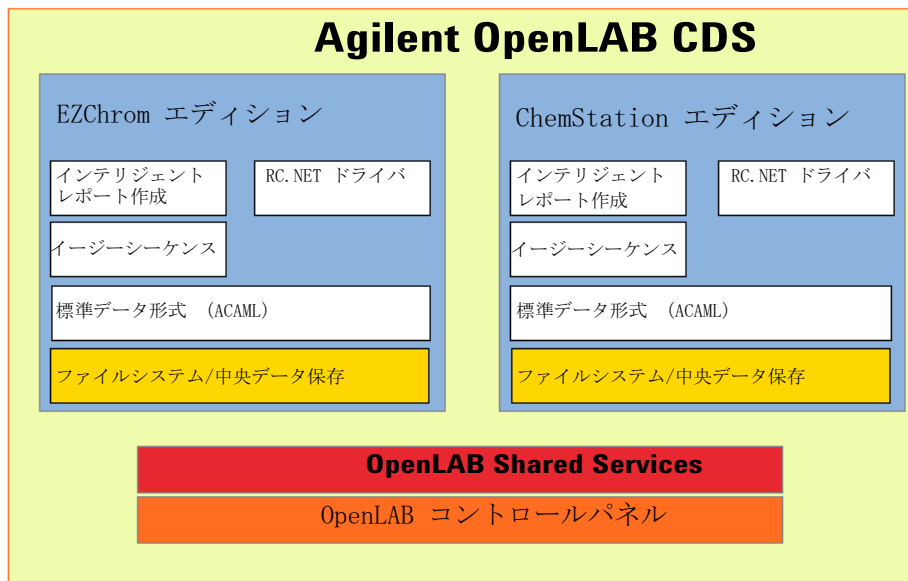


図 1 OpenLAB CDS アーキテクチャ

OpenLAB CDS ChemStation C.01.04 には以下のソフトウェアとインタフェースモジュールが含まれています。

- OpenLAB コントロールパネル
OpenLAB コントロールパネルには、OpenLAB Shared Services にアクセスするためのユーザーインタフェースがあります。
- OpenLAB Shared Services
このサービスにはユーザー管理、ライセンス管理、機器管理といった中心的機能が用意されています。これら機能は、すべての OpenLAB モジュールで使用可能です。
- 機器コントロールおよびデータ取込モジュール (ChemStation/EZChrom)
このモジュールは ChemStation または EZChrom で使用できます。両フレイバとも下位互換性があるために、各ソフトウェアの以前のバージョンで取り込まれたデータを処理することができます。OpenLAB CDS

ChemStation と OpenLAB CDS EZChrom は、イーजीシーケンス、RC.NET ドライバ、およびインテリジェントレポートなどの機能を共有しています。本ガイドは OpenLAB CDS ChemStation エディションについて説明しています。

OpenLAB Shared Services

OpenLAB Shared Services には OpenLAB コントロールパネルでアクセスします。Shared Services には、すべての OpenLAB モジュールで使用可能な以下の機能が含まれます。

- **機器管理**

機器の基本情報を管理することができます。この情報はコンフィグレーションにより、単一 PC からアクセス可能である場合と、ネットワーク内の複数ワークステーションからアクセス可能な場合があります。

- **ラボステータス全体表示**

機器の基本情報に集中的にアクセスすることができます。基本情報とは、機器の名称、ロケーション、ステータス（オンラインまたはオフライン）などです。

- **リモート機器コントロール**

分散システムコンフィグレーションでは、CDS クライアント PC から機器を設定および管理することができます。

- **アクティビティログブック管理**

ユーザーログイン、ユーザーの作成 / 削除、機器の作成 / コンフィグレーション / 変更 / 削除といったすべてのシステム作業に、集中的にアクセスすることができます。

- **ユーザー管理**

ユーザー、グループ、ロール、権限を管理することができます。ECM システムまたは Windows ドメインでユーザーを管理する場合、既存ユーザーを Shared Services に設定することができます。

- **ライセンス管理**

このサービスにより、機器モジュールやアドオンに必要なすべてのライセンスを管理することができます。ライセンスの追加および削除、およびすべてのライセンスのステータス表示が可能です。ライセンスは、シ

シングルライセンスサーバー、またはリダンダントライセンスサーバーにおいて使用できます。

機器を起動すると、ChemStation は必要なライセンスがライセンスプールで利用できることを自動的に確認し、機器を動作させるために必要なライセンスを確保します。機器を停止すると、ライセンスは解放され、他の機器で使用可能になります。

OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.04 に導入された変更と新機能

OpenLAB CDS ChemStation C.01.04 には以下の新機能があります。

- インテリジェントレポート

新しいレポートテンプレートエディタにより、テンプレートの作成および修正を簡単に行うことができます。レポートテンプレートは、Microsoft Business Intelligence Studio でも使用されている標準のレポート定義言語 (RDL) で保存されます。

シーケンスメソッドでレポートテンプレートを参照する場合、そのレポートテンプレートは自動的に結果セットにコピーされます。

インテリジェントレポートを有効にすると、新設の **【レビュー】** ビューが使用できます。これにより、データファイルのさまざまな組み合わせに対してあらゆるレポートテンプレートを適用することができます。

- メソッド用途

ChemStation エクスプローラから、マスターメソッドおよびシーケンスメソッドを直接読み込むことができます。 **【メソッドの更新】** ダイアログでは、マスターメソッドとシーケンスメソッドを同期することができます。

- データ解析モード

【再計算モード】 または **【再解析モード】** を選択することが可能です。再解析モードでは、シーケンスのコンテキスト内のサンプルを再解析することができます (ブラケットキャリブレーションなど)。再計算モードでは、メソッドの異なるサンプルまたはサンプルセットを再計算することができます。各モードに関連する必要機能は、個別のツールバーで利用可能です。

- 結果セット

コンテナは結果セットと改称されました。結果セットで使用するメソッドは、取り込み中でも修正可能です。すでに取り込んだデータを利用して、独自の結果セットを作成することができます。例えばクロスサンプル計算について、ユーザーが編集した結果セットを利用することができます。



2 ライセンス方針

ライセンス方針	14
ライセンス取得に関する検討事項	15
OpenLAB ライセンス	19

この章では、Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 のコンポーネントと機能に関するライセンス方針について説明します。



ライセンス方針

ChemStation Edition で導入された新ライセンス方針では、ライセンスをより効率的に使用できます。以前の ChemStation バージョンとは異なり、機器コントロール、ドライバ、およびアドオンのライセンスは**フローティングライセンス**となっています。機器は、起動時にライセンス管理へ必要なライセンスを要求し、終了時にライセンスを戻します。つまり、インストールした機器ごとに 1 つのライセンスではなく、同時に実行する機器数をカバーできるライセンス数だけを購入すればよいことになります。ライセンス管理は Shared Services の一部です。

以下の 2 つのタイプのライセンスがあります。

- **カウントライセンス**は、関連ソフトウェアまたは機器モジュールごとに 1 つ使用されます。
- **共有ライセンス**は、PC または機器ごとに共有可能です。たとえば、Agilent OpenLAB CDS ChemStation ライセンスは共有ライセンスです。つまり、PC で ChemStation インスタンスを実行する数に関わらず PC 1 台に必要なライセンスは 1 つのみです。

ライセンス取得に関する検討事項

以前のリビジョンからのアップグレード時のライセンス取得に関する検討事項

新ライセンス構造の導入に伴い、ライセンスの必要数は、現在のインストールで使用しているライセンス数を考慮して再計算する必要があります。スタンドアローンワークステーションをインストールする場合、必要なライセンス数は以前のシステムとほぼ同数です。ネットワークワークステーションのインストールする場合、お使いの現在のライセンス使用状況を考慮してライセンスの必要数を計算します。すべての機器および ChemStations を同時に使用しない場合には、ライセンス数を減らすことができます（『「ライセンス方針」 14 ページ』を参照）。

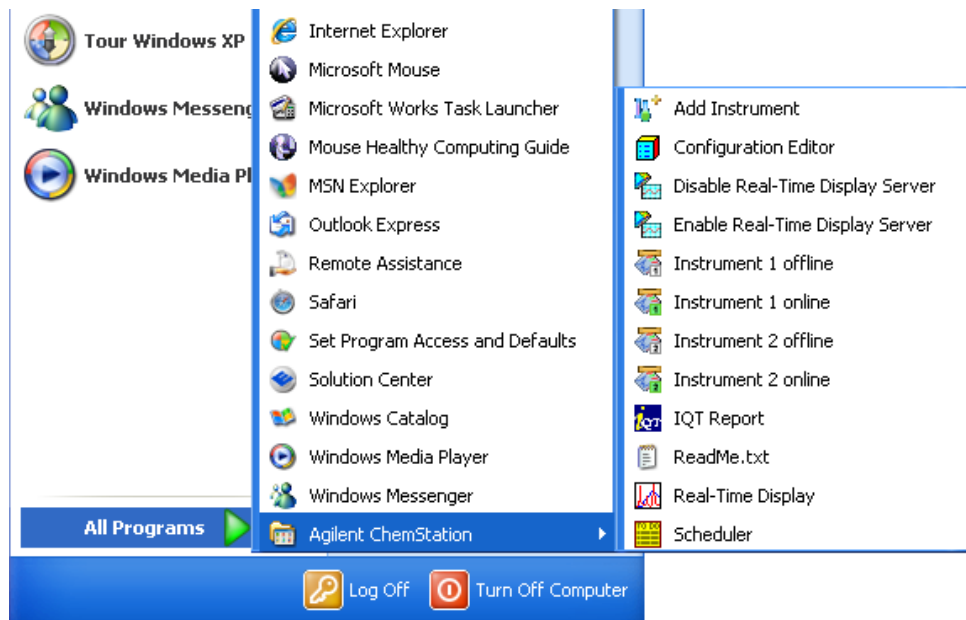
2 ライセンス方針

ライセンス取得に関する検討事項

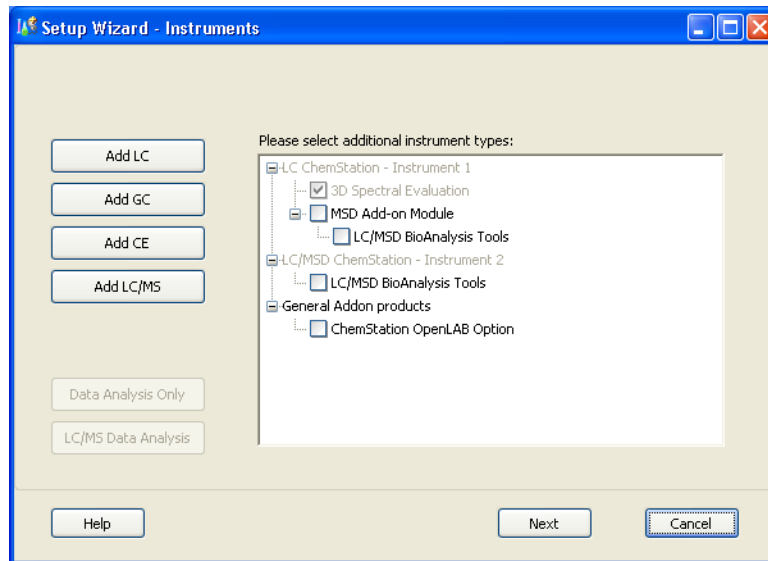
ChemStation B. 04. xx における現在のライセンスコンフィグレーションの取得

ChemStation B. 04. xx では、現在のライセンスは以下のように表示されます。

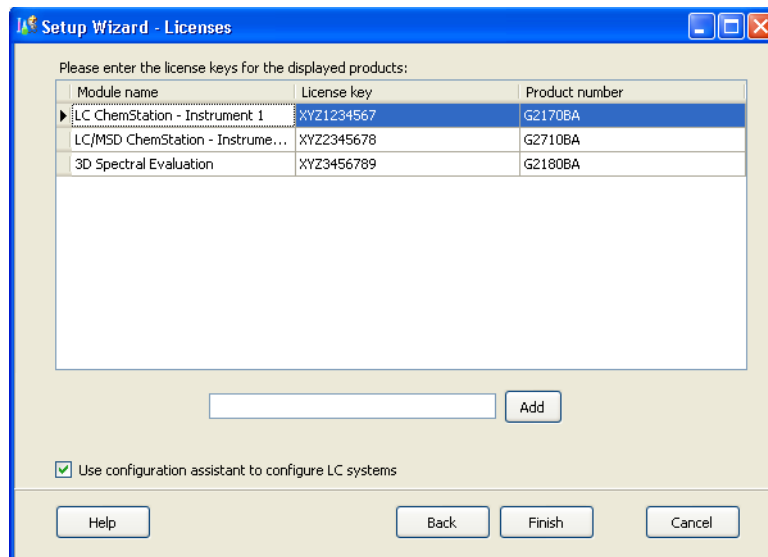
- 1 [機器追加] メニューエントリを開きます。



[セットアップウィザード] は、[機器] 画面で開きます。



- 2 [次へ] をクリックして、機器コンフィグレーションの次の画面に進みます。
セットアップウィザードの [ライセンス] 画面には現在のライセンスがすべてリストされます。



- 3 現在のライセンス取得済み製品と製品番号を記録します。

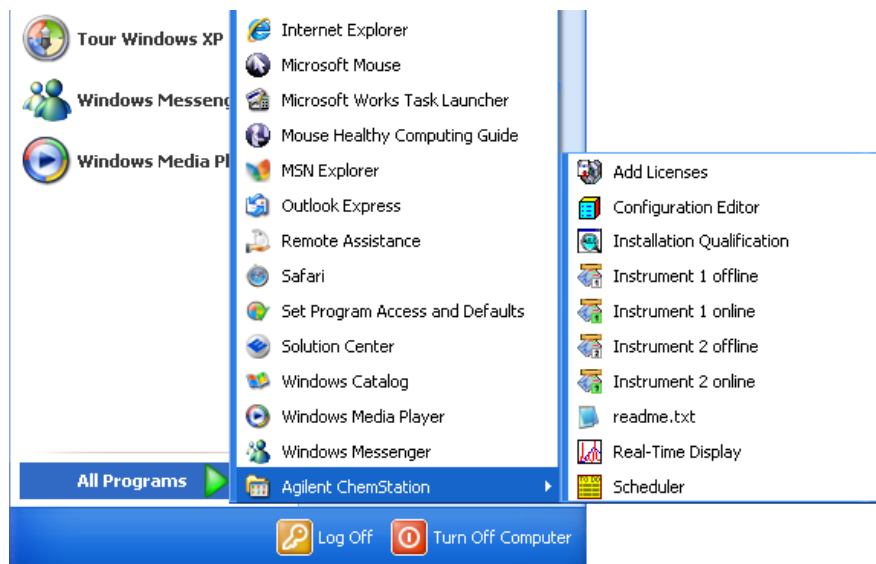
2 ライセンス方針

ライセンス取得に関する検討事項

B. 04. 01 以前の ChemStation リビジョンにおける現在のライセンスコンフィギュレーションの取得

B. 04. 01 以前の ChemStation の場合、以下の手順を使用します。

1 [ライセンス追加] メニュー項目を開きます。



[ライセンス登録] ダイアログボックスが開きます。



2 ライセンスとキーの値を記録します。

OpenLAB ライセンス

表 1 主なライセンス機能

ライセンス機能	ライセンス タイプ	対象	コメント
AgilentOpenLABCDSCHEMStation	PC 内で共有	すべての ChemStation イ ンスタンス	これは、常に消費される ChemStation のフルコアラ イセンスです。LC フルド ライバまたは GC フルドラ イバパッケージ (CE、ADC、 CE/MS、または LC/MS を含 む) を使用して最大 4 つ の機器をサポートします。
AgilentOpenLABCDSEZChrom	PC 内で共有	すべての EZChrom インス タンス	これは、常に消費される EZChrom のフルコアライセ ンスです。LC フルドライ バまたは GC フルドライバ パッケージを使用して最大 4 つの機器をサポートしま す。
AgilentOpenLABCDSCHEMStationVL	PC 内で共有	1120/1220 Infinity LC お よび 7820 GC	これは、常に消費される ChemStation バリユーライ ン (VL) のコアライセンス です。1120/1220 Infinity LC または 7820 GC を最大 4 つまでコントロールしま す。
AgilentOpenLABCDSEZChromVL	PC 内で共有	1120/1220 Infinity LC お よび 7820 GC	これは、常に消費される EZChrom バリユーライン (VL) のコアライセンスで す。1120/1220 Infinity LC または 7820 GC を最大 4 つまでコントロールしま す。

2 ライセンス方針

OpenLAB ライセンス

表 1 主なライセンス機能

ライセンス機能	ライセンス タイプ	対象	コメント
AgilentOpenLABCDSEECcompact	PC 内で共有	コンパクト LC、 コンパクト GC	これは、EZChrom コンパ クトコアライセンスです。コ ンパクト機器 (1120/1220、6820/7820 お よび 490 Micro GC) を最 大 2 つまでコントロール します。
AgilentOpenLABCDSAICaddon	PC 内で共有	ChemStation ま たは EZChrom インスタンスの あるすべての AIC	この機能は、コアライセン スを AIC コアライセンス に変換します。



3

Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する 前提条件

ハードウェアおよびソフトウェア要件 22

通信コンポーネント 23

この章では、Agilent OpenLAB CDS ソフトウェアを正常に動作するための要件が記載されています。PC のタイプやパフォーマンス、オペレーティングシステム、および通信プロトコルに関する要件を説明します。



ハードウェアおよびソフトウェア要件

ハードウェア要件

コンピュータハードウェアおよびパフォーマンス要件についての詳細は、『Agilent OpenLAB クロマトデータシステム（CDS）ハードウェアおよびソフトウェア要件』にて説明しています。

オペレーティングシステムの要件

ChemStation リビジョン C.01.04 は、英語のほか日本語および中国語にローカライズされています。

注記

Agilent は、これ以外の非英語オペレーティングシステムに対してのサポートは行っておりません。

注記

ECM 接続は、英語版のオペレーティングシステムのみでサポートしています。

オペレーティングシステムおよびその他のソフトウェア要件についての詳細は、『Agilent OpenLAB クロマトデータシステム（CDS）ハードウェアおよびソフトウェア要件』にて説明しています。

LAN を使用して分析機器に接続する場合は、Microsoft TCP/IP プロトコルをインストールして設定する必要があります。

通信コンポーネント

ネットワーク通信へのアップグレード

標準 TCP/IP プロトコルを用いて機器を接続する場合は、このプロトコルを PC のネットワークプロトコルとしてインストールしておく必要があります。分析機器をネットワークに接続するために使用している LAN アセンブリ、J4100A Jet Direct、または G1369A/B/C ネットワークカードの現在のコンフィグレーションは、アップグレードの際も維持されます。

GPIB コントロール機器からネットワーク接続にアップグレードする場合は、必要なネットワーク通信コンポーネントをインストールし、機器を再コンフィグレーションする必要があります。

GPIB および USB-GPIB 通信の使用法

GPIB 経由で通信する分析機器によっては、OpenLAB CDS C.01.04 との通信に USB-GPIB インタフェースを使用して GPIB 接続を引き続き使用する場合があります。詳細は、を参照してください。

注記

Agilent I/O ライブラリは、Windows Server 2008 R2 ではサポートされません。そのため、GPIB 通信は AIC では使用できません。

表 2 GPIB および分析ハードウェア互換性マトリックス

機器タイプ	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357A	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357B
Agilent 1100/1200 LC	–	–
Agilent 1120/1220 一体型 LC	–	–
Agilent 7890A GC システム	–	–
Agilent 7820A GC システム	–	–
Agilent 6890N GC	–	–

3 Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する前提条件 通信コンポーネント

表 2 GPIB および分析ハードウェア互換性マトリックス

機器タイプ	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357A	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357B
Agilent 6890A および 6890 Plus GC	–	はい
Agilent 6850 GC	–	–
7100 キャピラリ電気泳動	–	–
35900E	–	–

注意

電子ボードおよび部品は、静電気放電（ESD）に敏感です。

ESD は電子ボードやコンポーネントを損傷を与える可能性があります。

→ ボードは端を持つようにし、電気コンポーネントには触れないようにしてください。電子ボードやコンポーネントを取り扱う時は、必ず静電気防止キット（静電気防止ストラップなど）を使用してください。



4

Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード

アップグレード手順の概要	26
アップグレードの準備	28
機器固有のアップグレード説明	30
アドオンソリューションのアップグレード説明	31
ChemStation リビジョン C.01.04 のインストール	34
機器の再コンフィグレーション	35
インストールの完了	36
ECM を使用したインストールのアップグレード	37
アップグレードの準備	37
アップグレードの完了	38
ECM-OLSS 権限ディクショナリ	39
ChemStation リビジョン A.xx.xx からのマニュアルアップグレード	44

この章では、Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレード方法を説明します。これにはアップグレード中のアドオンソリューションへの対処法も含まれます。



アップグレード手順の概要

ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレードは、メジャーなアップグレードです。すなわち、マスターインストーラはリビジョン C.01.04 をインストールする前に、以前の ChemStation をアンインストールする、または別のフォルダへと移動させます。

- ChemStation リビジョン B.04.0x では、すでにある ChemStation フォルダへのアップグレードを選択すると、インストールされている ChemStation ファイルは削除され、すべてのユーザーが作成したファイルは Chem32_001 などのバックアップフォルダに移動されます。新しいフォルダの作成を選択すると、既存のフォルダはオリジナルの名前で保持されます。
- ChemStation リビジョン B0.03.0x およびそれ以前では、すでにある ChemStation フォルダへのアップグレードを選択すると、ユーザーが作成したすべてのファイルを含む ChemStation のインストーラー式は、Chem32_001 などのバックアップフォルダに移動します。新しいフォルダの作成を選択すると、既存のフォルダはオリジナルの名前で保持されます。

いずれの場合も、デフォルトのディレクトリを使用している場合は、ファイルは『[26 ページ 表 3](#)』のようにバックアップされます。

表 3 バックアップファイル構造

フォルダ名	ファイルタイプ
Chem32_001\%x\data\%.d	データファイル
Chem32_001\%x\methods\%.m	メソッド
Chem32_001\%x\sequences\%.s	シーケンス
Chem32_001\%x\hypersequences\%.hyp	ハイパーシーケンス
Chem32_001\%x\verify\%.val	システムベリフィケーションテスト
Chem32_001\%x\%.wpt	ウェルプレート定義ファイル
Chem32_001\%repstyles\%.frp	レポートスタイル

表 3 バックアップファイル構造

フォルダ名	ファイルタイプ
Chem32_001¥core¥*.mac, mcx	user.mac を含むユーザーが作成したマクロファイル
Chem32_001¥core¥*.xml	XML ファイル
Chem¥spec¥libs¥*.uvl	UV スペクトルライブラリファイル

注記

ChemStation リビジョン A.xx.xx と B.xx.xx のライセンス番号とファイルは、新しい OpenLAB CDS では有効ではありません。『「ライセンス方針」14 ページ』を参照し、お取引およびアップグレードライセンスについての詳細は、最寄りの販売担当者にご連絡ください。

アップグレードを開始する前に、利用可能な機器の適切なライセンスがあることを確認してください。

ChemStation B.02.01 から行う場合、データファイル、メソッド、シーケンスのために追加パスを設定できます。これらの追加の場所にあるファイルもコピーされません。これらは、OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 での対応するパスにマニュアルで移動する必要があります。

アップグレードの準備

ChemiStation をアップグレードする前に、重要な準備をいくつかしておく必要があります。

注記

ChemStation C.01.04 は、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 をサポートします。分散システムの Agilent Instrument Controllers (AIC) は、Window Server 2008 R2 でサポートされます。古いバージョンの ChemStation B.0x.0x は Windows 2000 でサポートされてきました。この場合は、ChemStation C.01.04 へのアップグレードを開始する前にオペレーティングシステムを更新する必要があります。『「Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する前提条件」 21 ページ』を確認してください。

注記

ECM をインストールしている場合は、まず追加の設定を記録する必要がある場合があります。詳細は、『「ECM を使用したインストールのアップグレード」 37 ページ』を参照してください。

- 1 システム全体をバックアップしてからアップグレードを開始することを強くお勧めします。
- 2 コンフィグレーションエディタを実行し、設定した機器それぞれの詳細について記録します。
 - 機器番号
 - 機器名
 - 接続設定 (IP アドレス、GPIO アドレスなど)任意のアドオンソリューションの詳細を含む
OpenLAB OLSS でお使いの機器を設定するには以上の情報が必要となります。
- 3 それぞれの機器では、ChemStation を実行し、[プレファレンス] ダイアログボックス ([表示] > プレファレンス) を開き、各タブの設定を記録します。
これらの設定を、アップグレードした ChemStation で再設定する必要があります。

- 4 『「機器固有のアップグレード説明」 30 ページ』の説明に従って機器に固有の準備を行います。
- 5 Windows の [コントロールパネル] から [プログラムの追加 / 削除] を使用して、ChemStation サービスリリースまたはパッチがあればアンインストールすることを強くお勧めします。

注記

サービスリリースおよびパッチを削除せずにアップグレードのインストールをすることも可能です。ただし、サービスリリースおよびパッチを含む以前のバージョンの ChemStation が正しくアップグレードされている場合も、アップグレード後に、対応するエントリが [プログラムの追加 / 削除] に残る場合があります。この場合、これらのエントリをあとから削除しないでください。

- 6 必要に応じて、Windows の [コントロールパネル] から [プログラムの追加 / 削除] を使用して、以下のコンポーネントをアンインストールします。

- PDF XChange
- Agilent I/O ライブラリ
- すべての ECM 関係のコンポーネント (ECM API および ECM クライアント)

これらのコンポーネントのいずれかが存在する場合、マスターインストーラーによって、OpenLAB CDS インストールの一部が検出されたとレポートされ、アップグレードを続行できません。

- 7 アドオンソリューションをすべてアンインストールします。具体的なアンインストールの説明については、アドオンソリューションのマニュアルを参照してください。

注記

インストールされているお使いのアドオンソリューションが ChemStation リビジョン C.01.04 でサポートされていることを確認します。サポートされるバージョンについては、『「ChemStation C.01.04 でサポートされているアドオンソリューション製品」 32 ページ』を参照してください。

- 8 すべての実行中のプログラムを終了し、コンピュータを再起動します。
これで、ChemStation リビジョン C.01.04 を開始する準備ができました。

機器固有のアップグレード説明

LC 固有のアップグレード説明

LC 固有のアップグレード説明はありません。

GC 固有のアップグレード説明

HeadSpace、CTC PAL Autosampler、SimDis および LTM ソフトウェアなどのアドオン製品は、ChemStation ソフトウェアをアップグレードする前にアンインストールする必要があります。

Companion は、B.01.01 以降の GC ChemStation に含まれており、個別のアドオン製品ではありません。

Retention Time Locking ソフトウェアが B.01.0x と B.02.0x のアドオンとしてインストールされている場合、アップグレードする前にコントロールパネルから [プログラムの追加 / 削除] を使用して削除する必要があります。RTL はリビジョン B.03.01 以降はアドオンではないため、削除の必要はありません。

35900E G2072BA および G2073BA A/D 製品には、LAN 通信機能を備えた 35900E が必要となります。

LCMS 固有のアップグレード説明

LC/MSD ファームウェアの更新

Agilent 6100 シリーズ LC/MS と Agilent 1100/1200 シリーズ LC/MSD のファームウェアは、LC/MSD ChemStation ソフトウェアの一部に含まれます。リビジョン C.01.04 に LC/MSD ChemStation をアップグレードした後、LC/MSD ファームウェアを更新する必要があります。

機器ファームウェアをアップデートするには、LC/MSD ChemStation が終了していることを確認してから、プログラム `x:\chem32\ms\firmware\msupdate.exe`（「x」は ChemStation ソフトウェアがインストールされているドライブの名前）を実行します。

チューニングファイル

LC/MSD ChemStation リビジョン C.01.04 にアップグレードしたあとは、両極性のオートチューンを行い、機器のチューニングパラメータを再構築してください。

CE および CEMS 固有のアップグレード説明

CE または CE/MS 固有のアップグレード説明はありません。

アドオンソリューションのアップグレード説明

すべてのアドオンソフトウェア製品は、既存の ChemStation を OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 にアップグレード前にアンインストールする必要があります。アドオン製品のアップグレードは自動では行われません。それぞれのアドオン製品によって異なるアンインストール操作は『「ChemStation C.01.04 でサポートされているアドオンソリューション製品」 32 ページ』で概説しています。アドオンソフトウェアは、ChemStation アップグレードの後に再インストールする必要があります。

アドオンソリューションのインストール中に、アドオンソリューションプログラムを保持するためには、特定の情報が **ChemStation.ini** ファイル（システムの WINDOWS ディレクトリ内）に書き込まれます。アップグレードプロセス中に、アップグレードプログラムがすべての **chemstation.ini** エントリを読み込み、このファイル内にあるエントリによってアドオンソリューションが検出されます。アドオンソリューションを前もって削除せずに ChemStation ソフトウェアをアンインストールすると、アップグレードプロセス中に警告が表示されます。

ChemStore または ChemAccess などの ChemStation Plus Family に属しているインストール済み製品は、標準の Windows アンインストール手順を使用してアンインストールする必要があります（[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] を選択します）。ChemStation をアップグレードする前に、Windows ルーチンを使用してこれらの製品をアンインストールします。

さらに、アドオンプログラムによっては、アンインストール中に削除されないエントリが **chemstation.ini** ファイルに作成されることがあります。これらのエントリはマニュアルで **chemstation.ini** ファイルから作成する必要があります。アドオンソリューションのアンインストール後の、アップグレードの前に行ってください。

4 Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード アップグレードの準備

ChemStation C.01.04 でサポートされているアドオンソリューション製品

注記

アップグレードの前に、インストールしたアドオンソリューションが ChemStation C.01.04 でサポートされていることを確認してください。すべてのアドオンソリューションソフトウェアが最初のリビジョンからサポートされているわけではありません。

表 4 ChemStation リビジョン C.01.04 でサポートされているアドオンソリューション製品

ChemStation リビジョン C.01.04 のアドオンソリューション	ChemStation リビジョン C.01.04 に必要なリビジョン	ChemStation リビジョン C.01.04 からのアンインストール
CTC PAL オートサンプラ G3382AA コントロール GC システム用	B.01.03	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
CTC PAL オートサンプラ G3383AA コントロール LC および LC/MS システム用	B.01.03	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
G2924AA GC 用ヘッドスペースソフトウェア	B.01.03	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
GC 用 G2887BA SimDis ソフトウェア	A.02.02	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
GC 用 G6586AA 低熱容量 (LTM) ソフトウェア	A.01.01 SP1	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。

表 4 ChemStation リビジョン C.01.04 でサポートされているアドオンソリューション製品

ChemStation リビジョン C.01.04 のアドオンソリューション	ChemStation リビジョン C.01.04 に必要なリビジョン	ChemStation リビジョン C.01.04 からのアンインストール
GC 用 G7300AA Easy Sample Prep ソフトウェア	B.03.02	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
Active Splitter	B.01.01	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
G1979A Multi-Signal Output アクセサリ	A.01.01	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
G2725AA Easy -Access	B.02.00	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
G3772AA Masshunter Analytical Studio Reviewer	B.02.00	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
G2196AA Method Scouting Wizard	A.02.02	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある 【プログラムの追加と削除】 から完全にアンインストールします。
G2201BA CE/MS	ChemStation の一部	

ChemStation リビジョン C.01.04 のインストール

DVD からインストールする場合には、OpenLAB CDS インストールディスクを挿入します。Autorun.inf では、Agilent.OpenLABCDSSetupFromDVD.exe が自動的に実行されます。

ポータブルデータ保存デバイスからインストールする場合には、デバイスをコンピュータの USB ポートに挿入し、OpenLABCDS_A01xx_xxx¥Disk1 に移動して、setup.bat を実行します。

詳細は、『Agilent OpenLAB CDS Workstation インストールガイド』を参照してください。

ChemStation のインストールが完了したら、PAL サンプラソフトウェアを除くアドオンソリューションをインストールします。PAL サンプラについては、ソフトウェアをインストールする前に機器を設定する必要があります。詳細は、『「アドオンソリューションのアップグレード説明」 31 ページ』を参照してください。

機器の再コンフィグレーション

OLSS コントロールパネルを開き、『Agilent OpenLAB CDS 機器コンフィグレーションガイド』に従ってすべての機器を追加します。コンフィグレーションエディタから記録した機器情報を使用して、以前と同様の名前と接続設定になるように機器をそれぞれ設定します。

注記

以前のインストールと同一のフォルダ構成にするためには、機器番号の順番に（機器 1 から）機器を設定します。

インストールの完了

- 1 Windows [エクスプローラ] を開き、バックアップフォルダからユーザーが作成したファイルをすべて新しく作成した機器フォルダにコピーするか、移動します。
- 2 それぞれ新しく作成した機器について ChemStation を実行し、[プレファレンス] ダイアログボックス ([表示] > [プレファレンス]) を開き、自分の記録からプレファレンスを設定します。

注記

ECM をインストールしている場合は、追加のプレファレンスを設定する必要がある場合があります。詳細は、『「ECM を使用したインストールのアップグレード」 37 ページ』を参照してください。

ECM を使用したインストールのアップグレード

注記

ECM 接続は、英語版のオペレーティングシステムのみでサポートしています。

ChemStation リビジョン C.01.04 では、ChemStation のユーザー、ロール、および権限は、以前の ChemStation リビジョンのように ECM ではなく、OpenLAB Shared Services (OLSS) で管理されます。このような管理を行うには、ChemStation のユーザー、ロール、および権限を ECM から OLSS に転送し、ECM でユーザーが作成したロールはすべて OLSS へ再び作成する必要があります。ECM のユーザー、ロール、および権限は以前のように ECM で引き続き管理されます。

さらに、ChemStation リビジョン B.04.0x からアップグレードする場合、ChemStation 管理ツールの設定を、ChemStation リビジョン C.01.04 に転送してください。

アップグレードの準備

- 1 ChemStation リビジョン B.04.0x からアップグレードする場合、ChemStation 管理ツールを開き（[スタート] > [プログラム] > Agilent Technologies > ChemStation 管理ツール）、すべての設定を記録します。
これらの設定を、アップグレードした ChemStation で再設定する必要があります。
- 2 『「Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード」[25 ページ](#)』のアップグレード手順に従って行います。

アップグレードの完了

- 1 ChemStation アップグレードの手順を完了します (『インストールの完了』 36 ページ』を参照してください)。
- 2 ChemStation リビジョン B.04.0x からアップグレードする場合、ChemStation 管理ツールを開き ([スタート] > [プログラム] > Agilent Technologies > ChemStation 管理ツール)、自分の記録したすべての設定をリセットします。
- 3 [OlssEcm] が、[コンフィグレーション設定] グループで [クライアントサービスプロファイル] として選択されることを確認して、[OK] をクリックします。
- 4 ECM にログインして、管理設定に移動します。
- 5 ChemStation ユーザーの詳細をすべて記録します。
 - ユーザー
 - ユーザーグループ
 - ロール
 - 権限この情報を OLSS に転送してください。
- 6 OLSS を実行して、[管理] 設定に移動します。
- 7 [ユーザー]、[グループ]、および [ロール] のノードを使用して、ECM と同様に OLSS で同じ条件になるようにします。

注記

OLSS の権限名は、ECM の権限名とは異なります。『ECM-OLSS 権限ディクショナリ』 39 ページ』では、ECM における名前と OLSS における名前の関係を示します。

ECM-OLSS 権限ディクショナリ

ChemStation: ビューアクセス

権限	ECM 名	OLSS 名
メソッド&ランコントロールビューへのアクセス	CS: コントロール (ビュー)	メソッド&ランコントロールビューにアクセス
データ解析ビューへのアクセス	CS: データ解析 (実行)	データ解析ビューにアクセス
診断ビューへのアクセス	CS: 診断 (ビュー)	診断ビューにアクセス
リテンションタイムロックメニューへのアクセス (GC のみ)	CS: リテンションタイムロック (編集)	RT ロックにアクセス
リテンションタイム検索メニューへのアクセス (GC のみ)	CS: リテンションタイム検索 (編集)	RT 検索にアクセス
ベリフィケーション (OQ/PV) ビューへのアクセス	CS: ベリフィケーション (ビュー)	ベリフィケーションビューにアクセス
バッチビューにおけるすべての操作を有効	CS: バッチ (実行)	バッチビューを有効
チューンビューへのアクセス (LC-MSD のみ)	CS: チューン (ビュー)	チューンビューにアクセス
レポートレイアウトビューへのアクセス	CS: レポートレイアウト (ビュー)	レポートレイアウトビューにアクセス
新しいレビュービューへのアクセス	N/A	レビュービューにアクセス

4 Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード

ECM を使用したインストールのアップグレード

ChemStation: 機器名

権限	ECM 名	OLSS 名
機器コンフィグレーションパラメータを変更	CS: 機器コンフィグレーション (編集)	機器コンフィグレーションの変更

ChemStation: メソッド

権限	ECM 名	OLSS 名
特定のメソッドに関する監査証跡を有効	CS: 監査証跡 (実行)	監査証跡を有効
キャリブレーションテーブルを作成 / 変更、キャリブレーション設定を変更	CS: キャリブレーション (編集)	キャリブレーションテーブルの編集
機器メソッドパラメータを変更	CS: 機器設定 (編集)	機器メソッドの変更
積分イベントを変更し、自動積分を実行	CS: 積分イベント (編集)	積分イベントの編集
イオンラベルに関するオプションを編集 (LC/MS のみ)	CS: イオンラベル (編集)	イオンラベルの編集
メソッドの変更を保存 (データ解析ビュー内のシーケンス / マスターメソッドの更新を含む)	CS: メソッド (編集)	メソッド変更の保存
ChemStation エクスプローラでメソッドを削除	CS: メソッド (削除)	メソッドの削除
ランタイムチェックリストとメソッド情報を変更	CS: メソッドプロパティ (編集)	メソッドプロパティの変更

権限	ECM 名	OLSS 名
ノイズ範囲およびパフォーマンスリミットを編集	CS: システムスータビリティ (編集)	システムスータビリティの編集
対話的リキャリブレーションの実行	CS: リキャリブレーション (実行)	メソッド キャリブレーションを実行

ChemStation: データ

権限	ECM 名	OLSS 名
データを ECM へ対話的に保存	CS: データ (編集)	データをストレージに保存
ChemStation エクスプローラでデータファイルを削除	CS: データ (削除)	データの削除
マニュアル積分を実行	CS: マニュアル積分 (実行)	マニュアル積分

ChemStation: レポート

権限	ECM 名	OLSS 名
レポートを印刷 / プレビュー	CS: レポートを印刷 (実行)	プレビュー / レポート印刷
レポート計算 / 印刷スタイルを変更し、機器カーブを編集	CS: レポート (編集)	レポートの変更
レポートテンプレートを保存	CS: レポート連プレート (編集)	N/A

4 Agilent ChemStation リビジョン C.01.04 へのアップグレード

ECM を使用したインストールのアップグレード

ChemStation: シーケンス

権限	ECM 名	OLSS 名
シーケンスの再解析	CS: 再解析 (実行)	再解析
シーケンスを保存	CS: シーケンス (編集)	シーケンステンプレート保存
ChemStation エクスプローラでシーケンスを削除	CS: シーケンス (削除)	シーケンスの削除
シーケンスサマリレポートおよび拡張統計法設定を変更	CS: シーケンスサマリ (編集)	シーケンスサマリの編集

ChemStation: コントロール

権限	ECM 名	OLSS 名
取り込みを開始 (シングルサンプルまたはシーケンス)	CS: 分析 (実行)	取込実行

ChemStation: ログブック

権限	ECM 名	OLSS 名
現在のログブックを保存	CS: ログブック (編集)	ログブックの保存
現在のログブックを消去	CS: ログブック (削除)	ログブックの消去

ChemStation: セキュリティ

権限	ECM 名	OLSS 名
他のユーザによりロックされた ChemStation セッションを解除	CS: セッションロックを解除 (実行)	セッションロックを解除
コマンドラインをオン / オフ	CS: コマンドライン (実行)	コマンドライン
キュー転送とスプーラキューマネージャにアクセス	CS: キュー転送管理 (実行)	キュー転送管理
ECM への自動アップロードを有効 / 無効	CS: 転送プレファレンス (編集)	ストレージ転送プレファレンスの変更

ChemStation リビジョン A.xx.xx からのマニュアルアップグレード

注記

ChemStation C.01.04 は、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 をサポートします。Agilent Instrument Controllers (AIC) は、Window Server 2008 R2 でのみサポートされます。ChemStation A.xx.xx から ChemStation C.01.04 にアップグレードするには、ChemStation をアップグレードする前にオペレーティングシステムをアップグレードする必要があります。『「Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する前提条件」 21 ページ』を確認してください。

ChemStation リビジョン A.xx.xx を ChemStation C.01.04 に自動的にアップグレードすることはできません。PC のハードウェアとソフトウェア、およびインストールファームウェアは、前提条件を満たしている必要があります (『「Agilent OpenLAB CDS リビジョン C.01.04 へのアップグレードに関する前提条件」 21 ページ』を参照してください)。すべての前提条件を満たしている場合は、データをバックアップし、現在の ChemStation リビジョンをアンインストールしたあとに、リビジョン C.01.04 のセットアップウィザードを実行します。他のアップグレード方法としては、サポートされているクリーンなシステムに ChemStation リビジョン C.01.04 をインストールすることです。

インストール後に、必要なユーザー作成ファイルを適切なディレクトリにマニュアルで移動します。必要なデータをすべてバックアップしてください。リビジョン C.01.04 でメソッド、シーケンスなどを読み込むと、新しいファイル形式で保存されます。ChemStation リビジョン C.01.04 で保存されたファイルは、ChemStation リビジョン A.xx.xx での下位互換性はありません。

注記

カスタマイズされたマクロソリューションおよび user.mac のマクロは、Unicode ベースのエンコードに移行することによって影響を受ける場合があります。

索引

3

35900E 30

C

CDS 6

CE 固有のアップグレード 31

CE/MS 固有のアップグレード 31

ChemStation
フレイバ 9

E

ECM 6

ELN 6

EZChrom 6, 9

G

GC 固有のアップグレード 30

GPIB アドレス 28

I

IP アドレス 28

L

LAN 接続 23

LC 固有のアップグレード 30

LC/MS 固有のアップグレード 30

LC/MSD ファームウェア 30

O

OLSS コントロールパネル 35

OLSS 6

OpenLAB コントロールパネル 9, 10

S

Shared Services 9, 10

T

TCP/IP 23

あ

アクティビティログブック 10

アドオンソフトウェア 31

い

インストール 34

インテリジェントレポート 12

お

オペレーティングシステム、要件 22

か

カウントライセンス 14

管理ツール 37

管理 37

き

機器管理 10

機器番号 28

機器名 28

機能 6

共有ライセンス 14

け

結果セット 12

権限 38, 39

こ

コンテナ 12

コンピュータ、要件 22

コンフィギュレーションエディタ 28

さ

再解析 12

再計算 12

せ

静電気放電 (ESD) 24

接続設定 28

ち

チューニングファイル 30

索引

ね

ネットワーク接続 23

は

パス 27

バックアップフォルダ 26

ふ

フローティングライセン
ス 14

ゆ

ユーザーグループ 38

ユーザー 38
管理 10

よ

要件

オペレーティングシステ
ム 22
コンピュータ 22

ら

ライセンス 14, 27
管理 11

ラボステータス全体表
示 10

り

リモート機器コントロー
ル 10

ろ

ロール 38

本書では

Agilent ChemStation をリビジョン A/B. xx. xx からリビジョン C.01.04 にアップグレードする場合に、このハンドブックを使用してください。

このハンドブックでは、Agilent ChemStation をリビジョン C.01.04 アップグレードするステップについて説明します。以前の ChemStation のリビジョンと比較して、変更点について詳しく説明します。

このハンドブックでは、Agilent ChemStation を正常にアップグレードして動作させるために必要な、PC のハードウェア要件およびソフトウェア要件を記載しています。『OpenLAB CDS ハードウェアおよびソフトウェア要件ガイド』も参照してください。

© Agilent Technologies 2010-2012

Printed in Germany
06/2012



M8301-96032



Agilent Technologies